

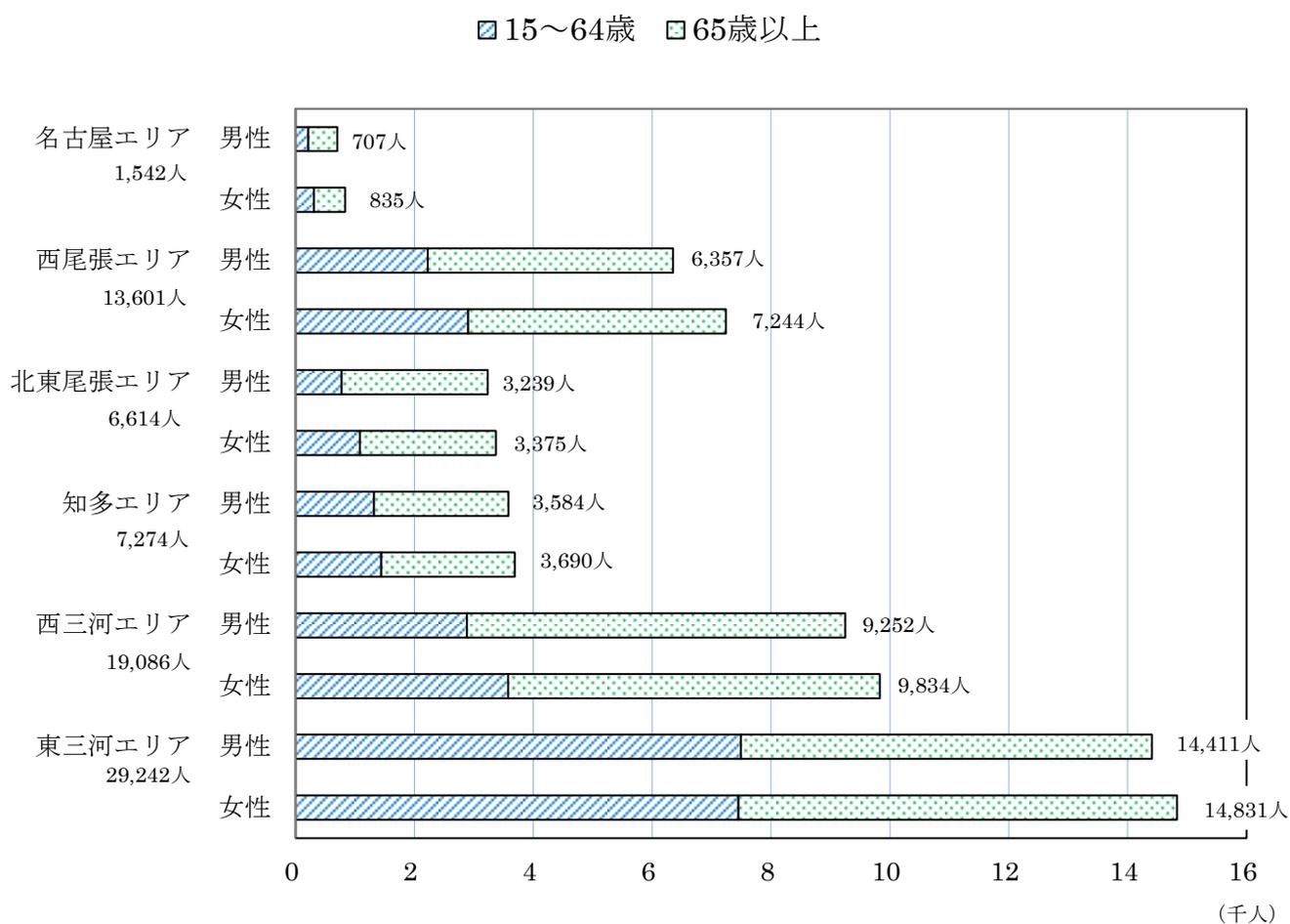
## ● 広域エリア別の年齢別農業就業人口（平成 22 年）

図は、広域エリア別に平成 22 年の年齢別農業就業人口をみたものです。

エリア全体では、名古屋エリア 1,542 人、西尾張エリア 13,601 人、北東尾張エリア 6,614 人、知多エリア 7,274 人、西三河エリア 19,086 人、東三河エリア 29,242 人で、県全体で 77,359 人（男性 37,550 人、女性 39,809 人）です。

男女とも、東三河エリア、西三河エリア、西尾張エリアの順に農業就業人口が多いです。また、すべてのエリアにおいて、農業就業人口は、女性が男性を上回っています。

広域エリア別の年齢別農業就業人口（平成 22 年）

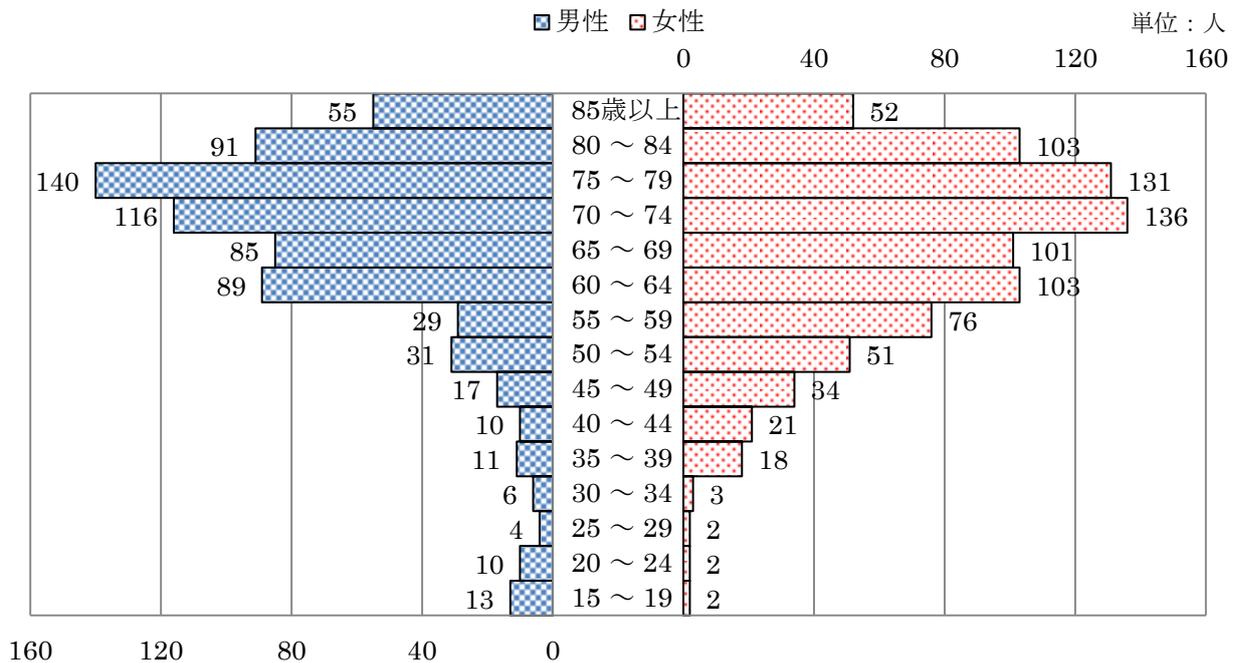


資料：農林水産省 「2010年世界農林業センサス」より作成

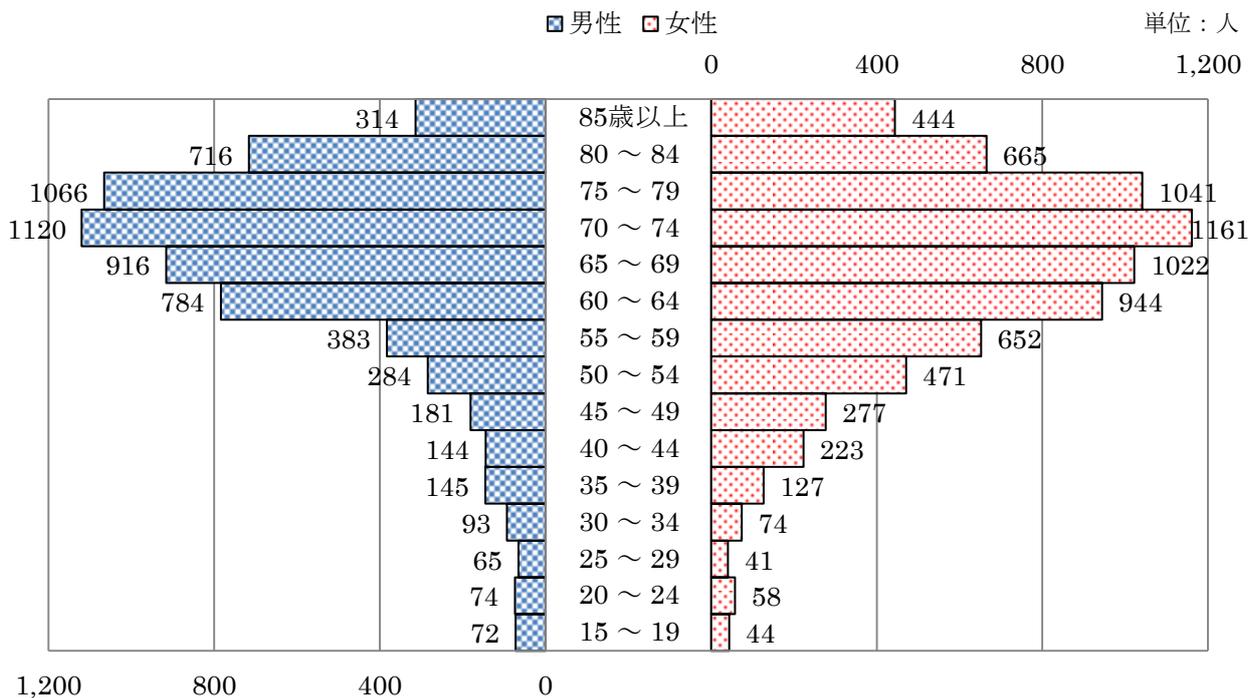
## ● 広域エリア別の農業就業人口ピラミッド（平成22年）

図は、広域エリア別に農業就業人口を人口ピラミッドの形にしたものです。すべての広域エリアで、男女とも70歳代の就業人口が最も多いのがわかります。また、多くのエリアで、60歳未満の就業人口が大きく落ち込んでいます。

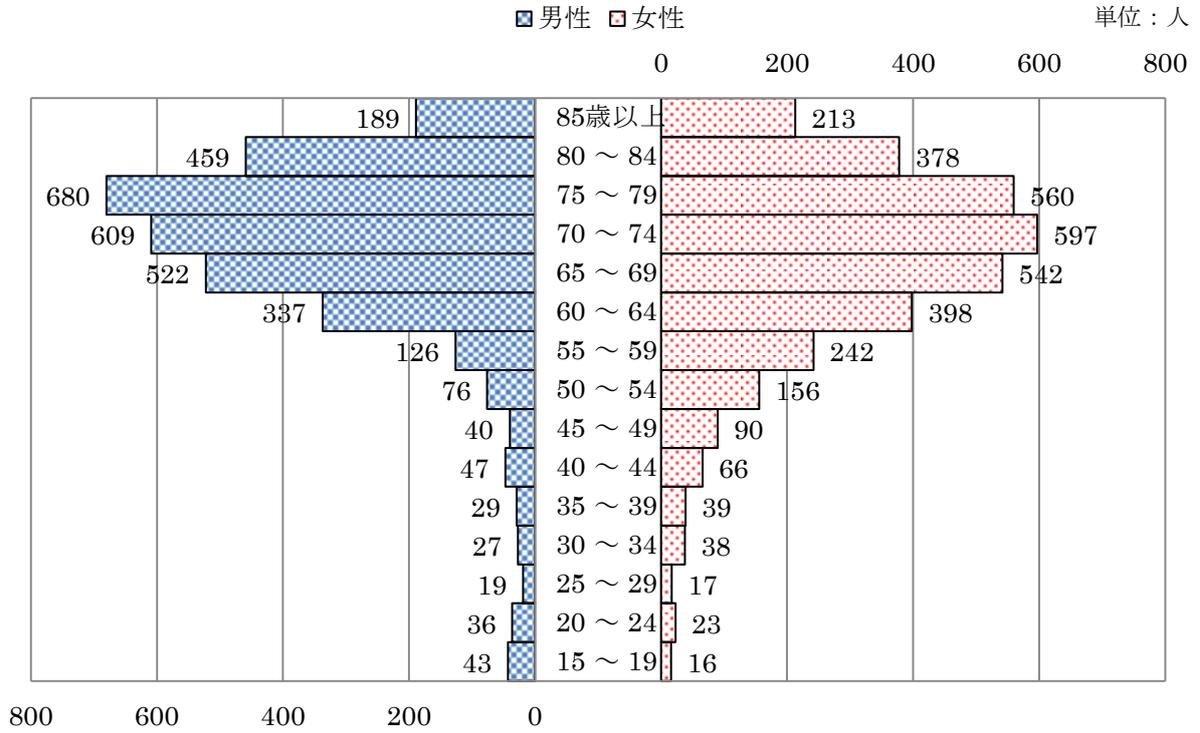
### 名古屋エリア 農業就業人口ピラミッド（平成22年）



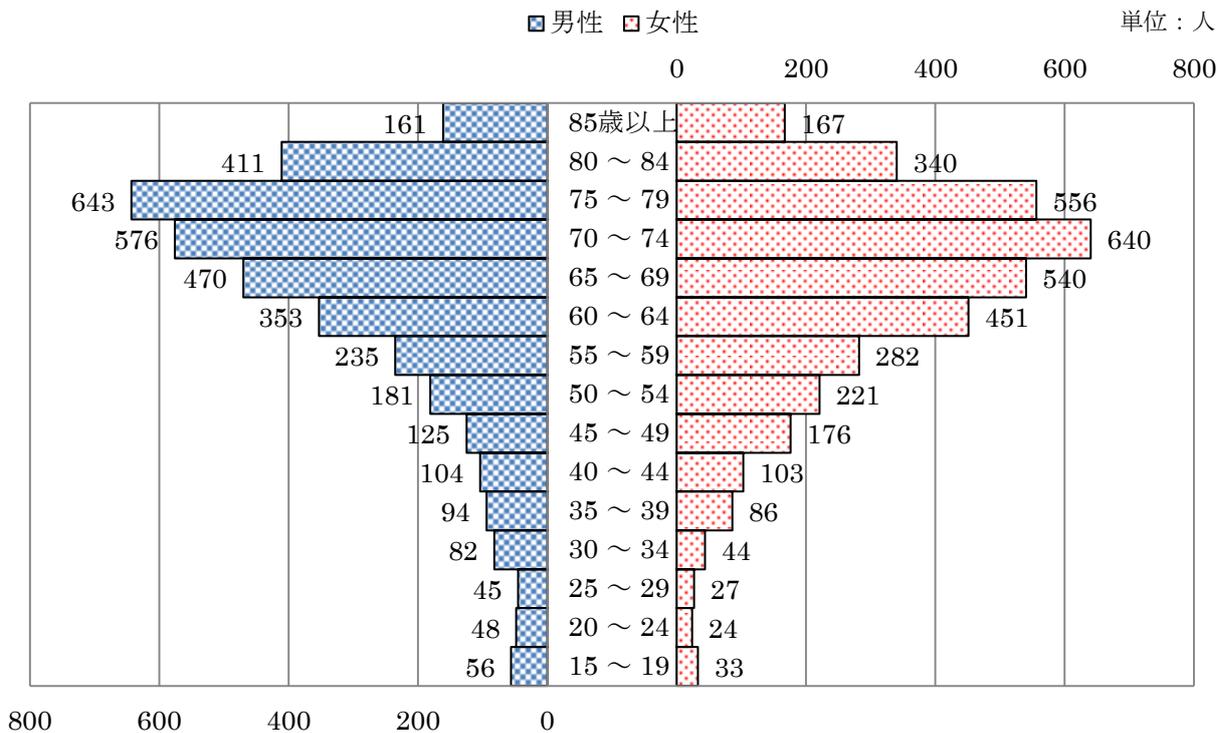
### 西尾張エリア 農業就業人口ピラミッド（平成22年）



### 北東尾張エリア 農業就業人口ピラミッド（平成22年）



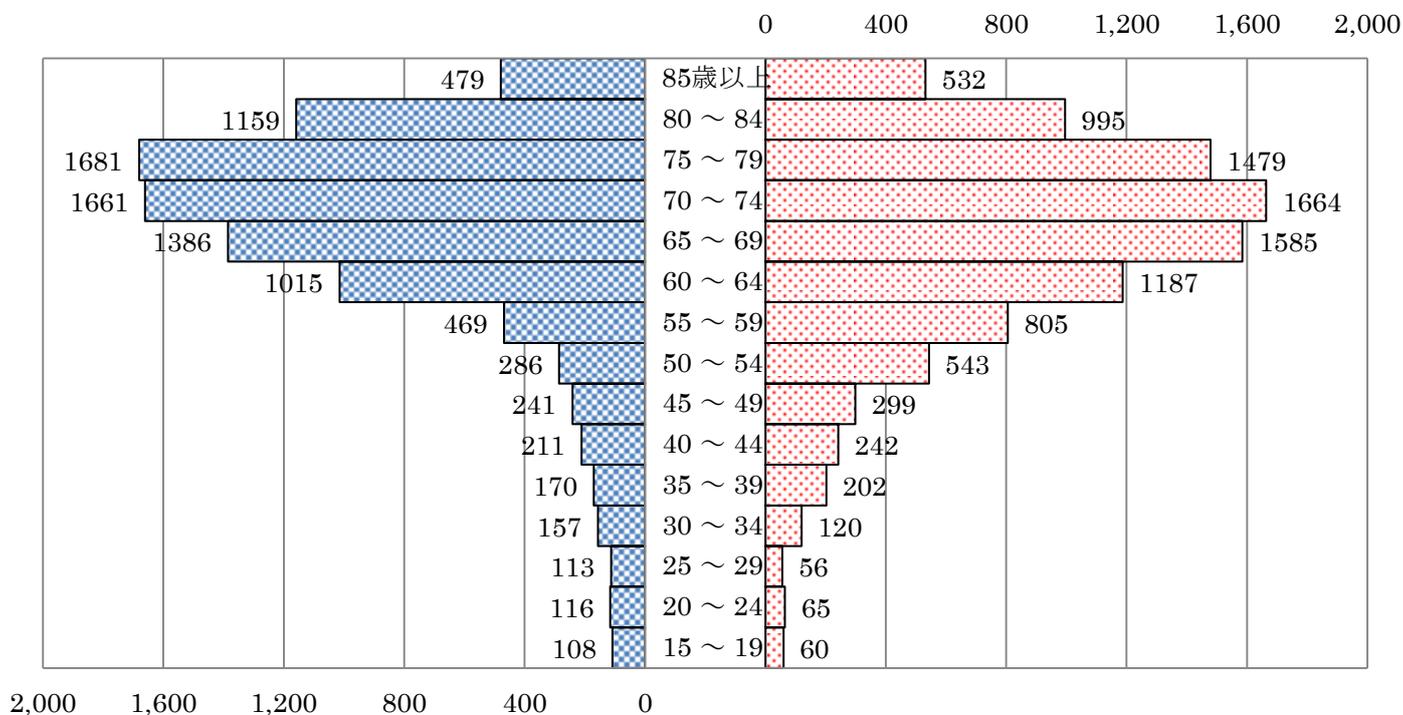
### 知多エリア 農業就業人口ピラミッド（平成22年）



### 西三河エリア 農業就業人口ピラミッド (平成22年)

■ 男性 ■ 女性

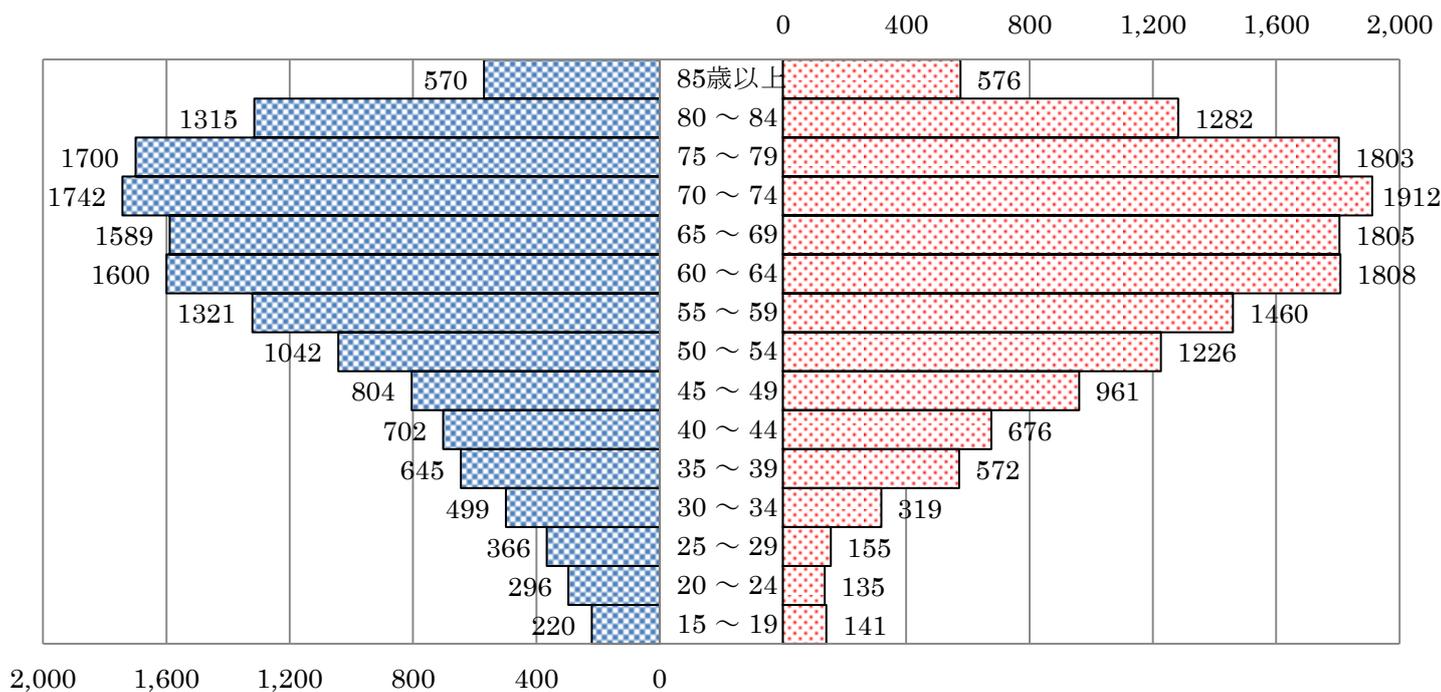
単位：人



### 東三河エリア 農業就業人口ピラミッド (平成22年)

■ 男性 ■ 女性

単位：人



資料：農林水産省 「2010年世界農林業センサス」より作成

## ● 愛知県の農業就業人口の年齢構成比（平成 12-17-22 年）

図は、県の農業就業人口の年齢構成比の推移を男女別にみたものです。

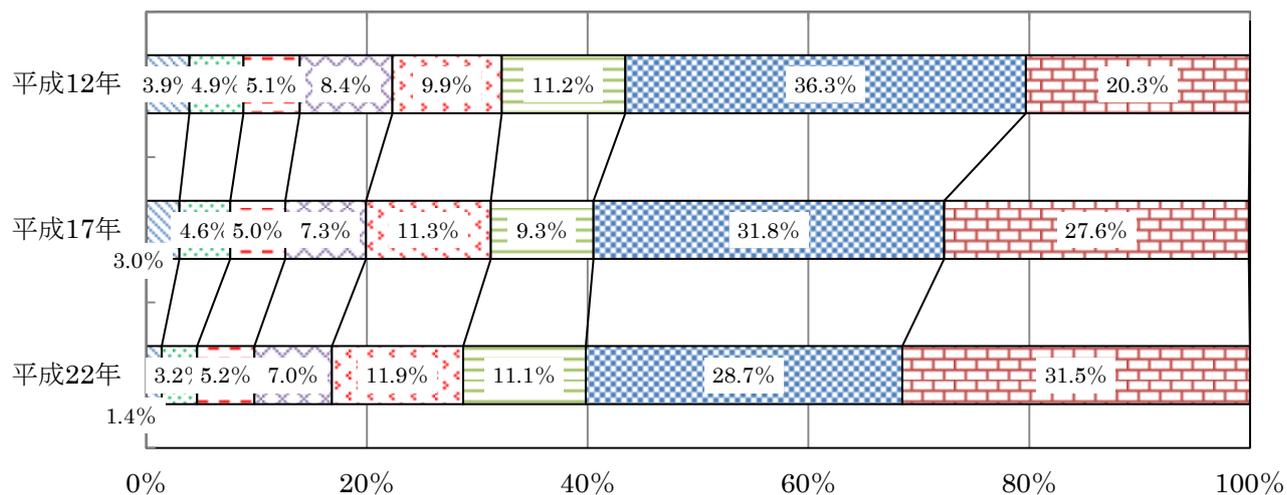
男女とも、15～29 歳人口の割合が小さくなっていっています。

反対に、男女とも 65 歳以上の就業人口の割合が年を追うごとに大きくなっていきます。平成 22 年の 65 歳以上の就業人口の割合は男性が 60.2%、女性が 57.8%ですが、これは平成 22 年の国の労働力人口に占める 65 歳以上の人口の割合が男性 9.4%、女性 8.1%（総務省 平成 22 年労働力調査年報から計算）ですので、高齢化の割合が非常に大きいといわざるをえません。

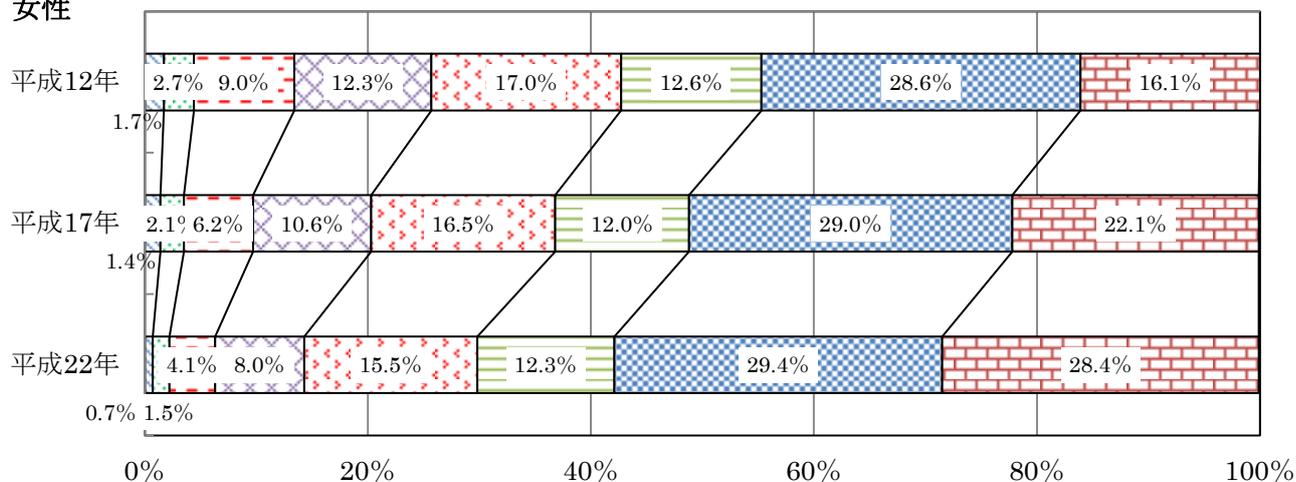
### 愛知県の農業就業人口の年齢構成比の推移

□ 15～19歳 □ 20～29 □ 30～39 □ 40～49 □ 50～59 □ 60～64 □ 65～74 □ 75歳以上

男性



女性



資料：農林水産省 2000年世界農林業センサス、2005年農林業センサス、2010年世界農林業センサス

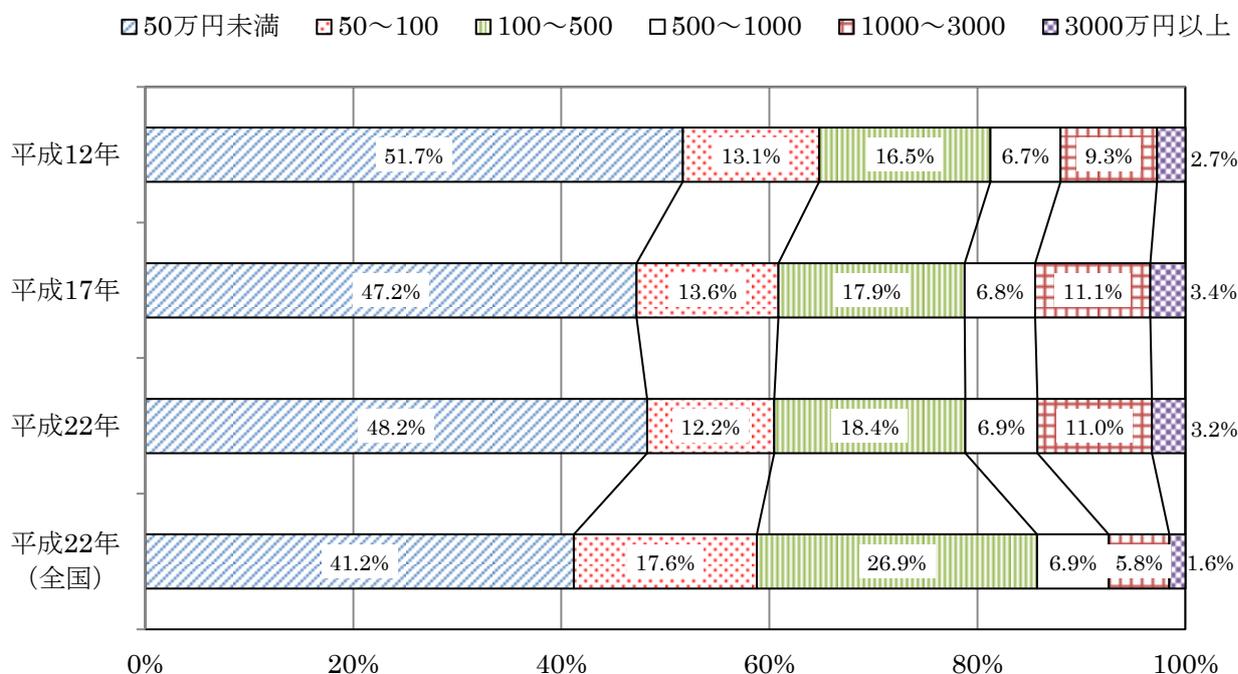
## ● 愛知県の農産物販売金額規模別農家数の構成比（平成12-17-22年）

図は、県の農産物販売金額規模別農家数の構成比の推移をみたものです。

平成12年、17年、22年とみても、100万円未満の小規模農家の占める構成比が50%を超えています。また、各販売金額規模の構成比をみても大きな変化はありません。

愛知県と全国を比較してみると、愛知県は、50万円未満の農家の占める構成比が全国より高いとともに、1,000万円以上の農家の占める構成比も全国より高いことがわかります。

### 愛知県の農産物販売金額規模別農家数構成比の推移



資料：農林水産省 2000年世界農林業センサス、2005年農林業センサス、2010年世界農林業センサス

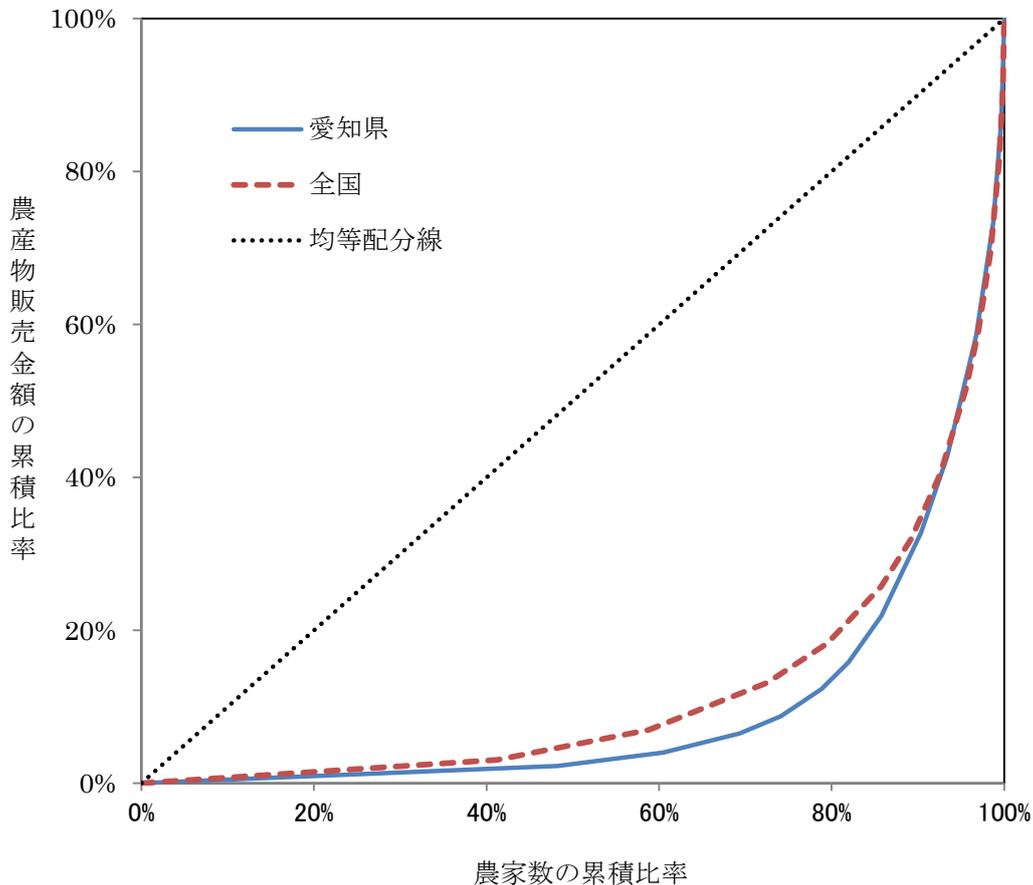
## ● 愛知県の農産物販売金額別農家数の不均等度（平成 22 年）

図は、平成 22 年の愛知県の農産物販売金額規模別農家数と全国の農産物販売金額規模別農家数をローレンツ曲線で表したものです。

ローレンツ曲線は、ある事象の分布の集中度、言い換えれば分布の不均等度を表すものです。所得や貯蓄分布等の集中度（不均等度）を表すのによく用いられます。

中央の斜線は、農家一戸当たりの販売金額が同額の場合を表しており、販売金額の分布に偏りがあるほど、ローレンツ曲線は下方に膨らんだ形となります。

愛知県のローレンツ曲線も全国のローレンツ曲線も下方に大きく膨らんでおり、販売金額の分布に大きな偏りがあることがわかります。さらに愛知県は、全国より下方に膨らんでおり、全国より偏りが大きいことがわかります。

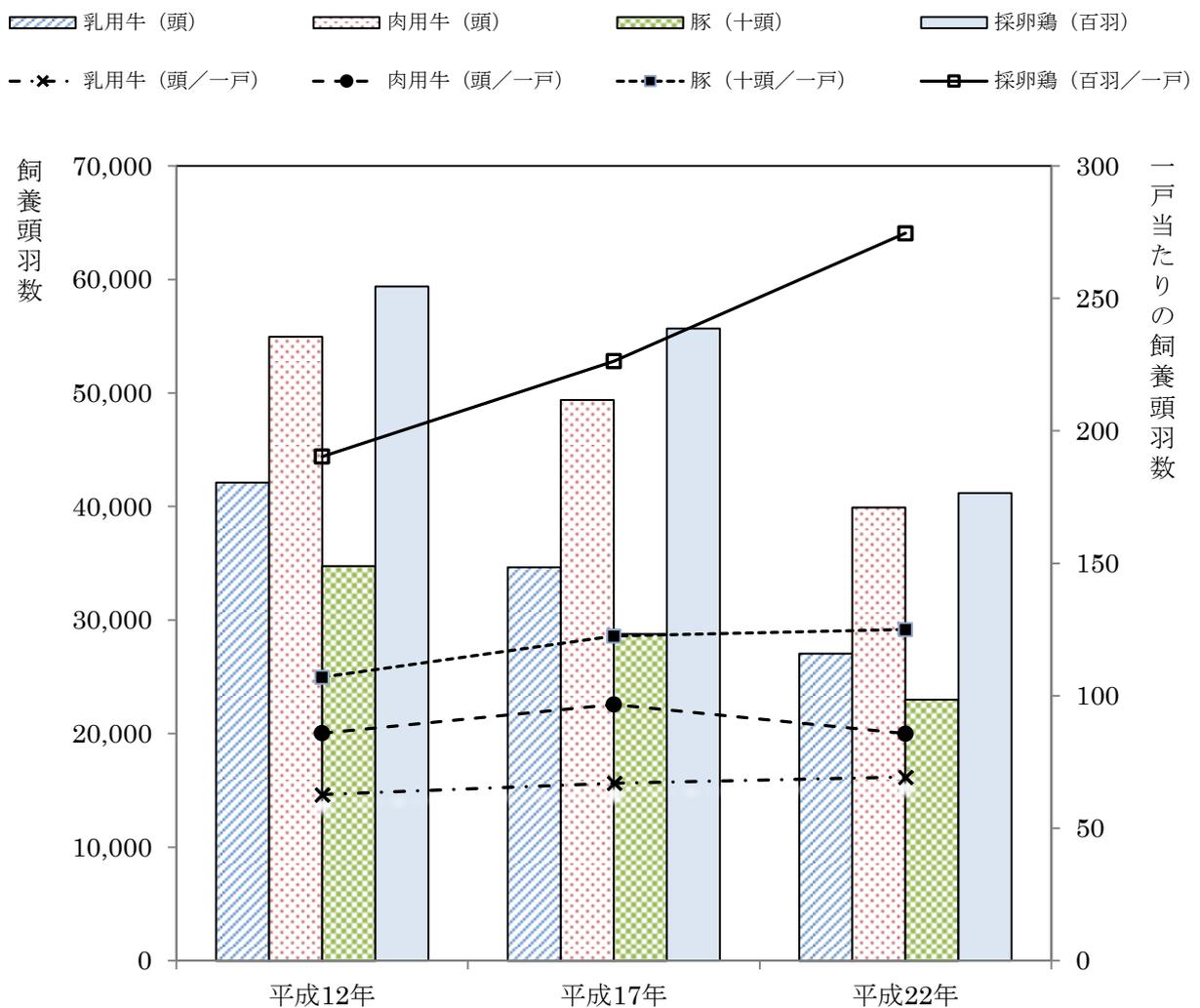


資料：農林水産省 2010 年世界農林業センサス

## ● 飼養頭羽数、一戸当たりの飼養頭羽数の推移（平成12-17-22年）

図は、平成12年から平成22年における愛知県全体の飼養頭羽数と一戸当たりの飼養頭羽数の推移をみたものです。県全体の飼養頭羽数をみると、乳用牛、肉用牛、豚及び採卵鶏のいずれも減少しています。一戸当たりの飼養頭羽数では、採卵鶏以外はここ10年でほぼ横ばいですが、採卵鶏は1.4倍となっています。

農家数の減少により飼養頭羽数は減少していますが、採卵鶏では規模拡大の傾向にあります。

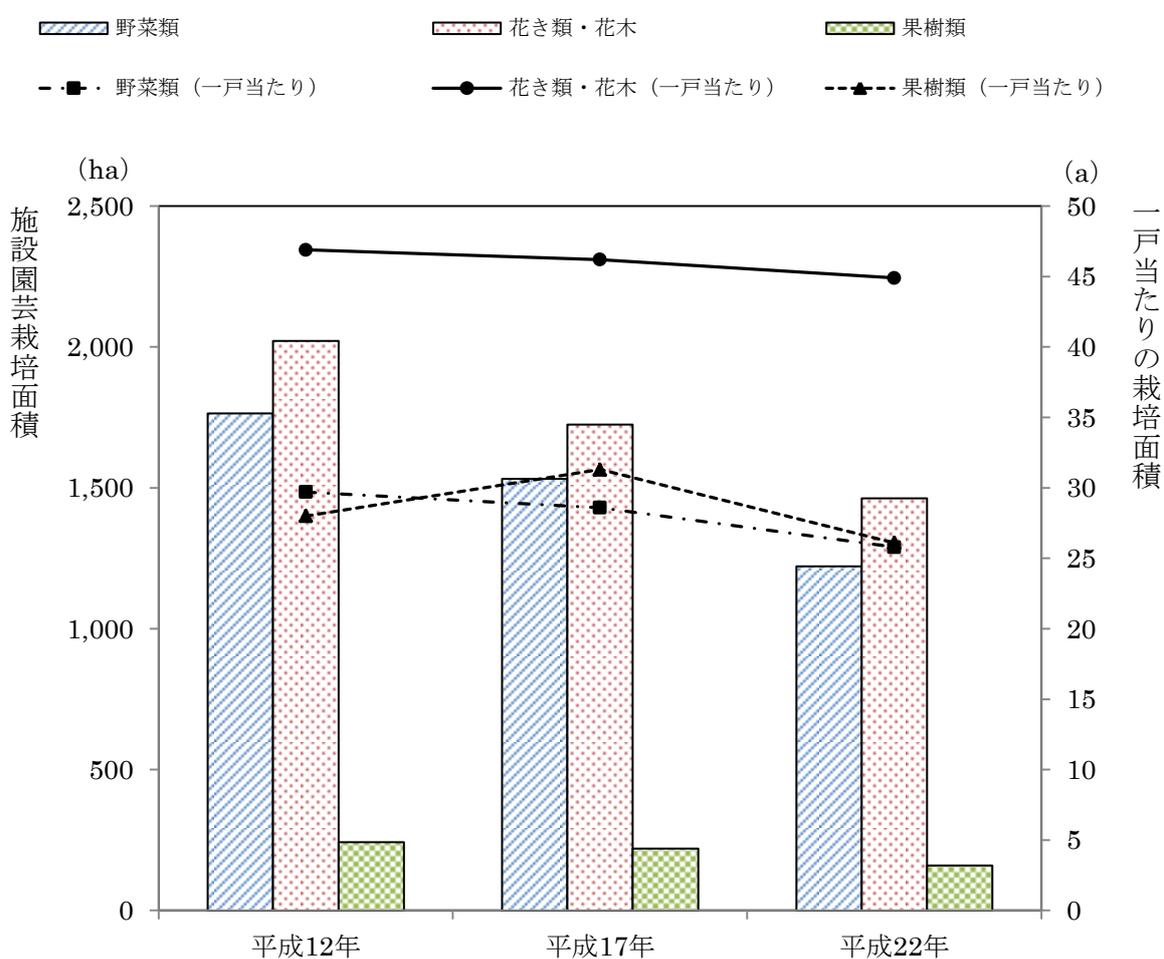


資料：農林水産省 2010年世界農林業センサス、2005年農林業センサス、  
2000年世界農林業センサス

## ● 施設園芸栽培面積、一戸当たりの栽培面積の推移（平成12-17-22年）

ガラス温室、ビニルハウス等の施設を利用した園芸を施設園芸といますが、図は、平成12年から平成22年における愛知県全体の施設園芸栽培面積と一戸当たりの同栽培面積の推移をみたものです。

県全体の施設園芸栽培面積をみると、野菜類、花き類・花木、果樹類のいずれにおいても減少しました。また、どの品目も一戸当たりの同栽培面積について、わずかな減少がみられます。



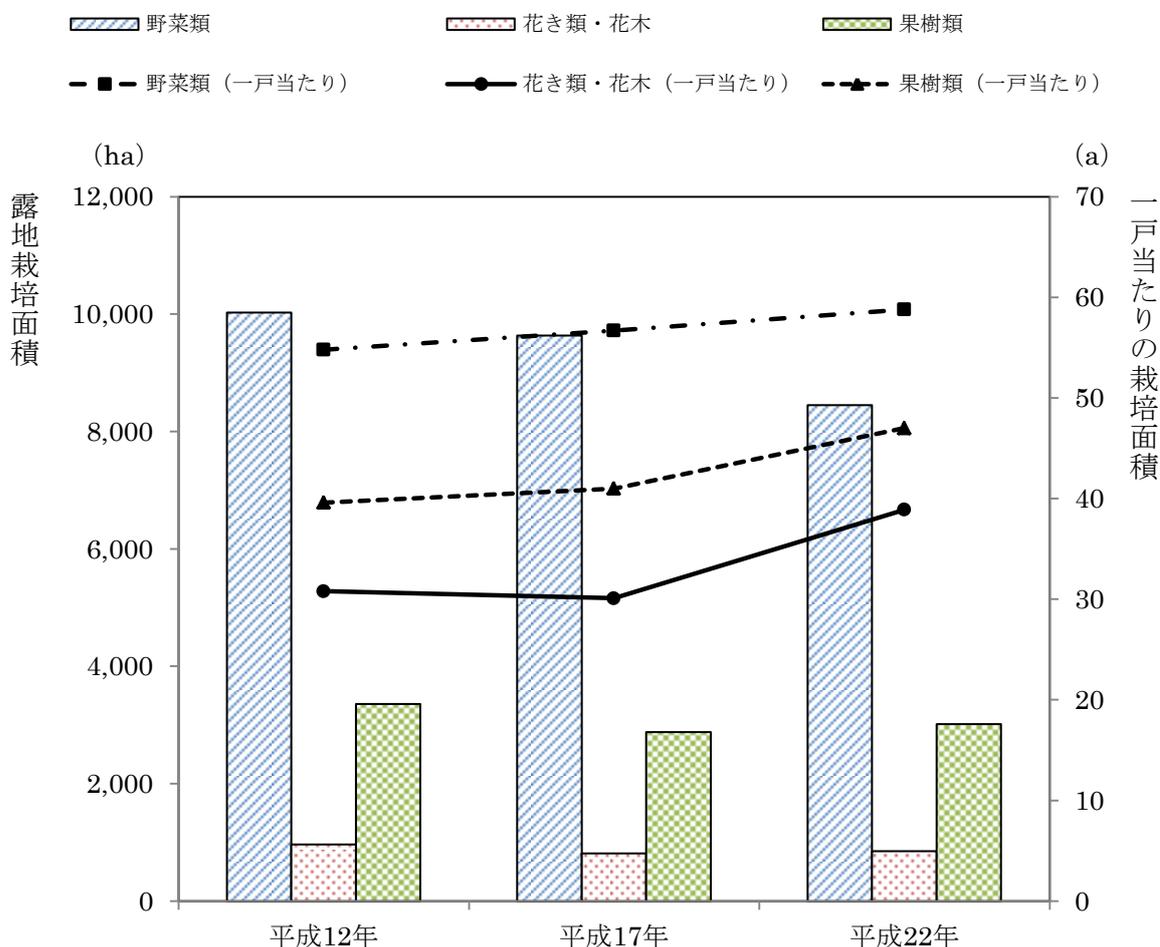
資料：農林水産省 2010年世界農林業センサス、2005年農林業センサス、  
2000年世界農林業センサス

## ● 露地栽培面積、一戸当たりの栽培面積の推移（平成12-17-22年）

図は、平成12年から平成22年における愛知県全体の露地栽培面積と一戸当たりの同栽培面積の推移をみたものです。

県全体の露地栽培面積をみると、野菜類、花き類・花木、果樹類のいずれにおいても減少しました。しかし、一戸当たりの同栽培面積については、どの品目も増加し、特に花き類・花木では約1.3倍に増加しています。

農家数が減少傾向にあるなか、施設園芸と異なり、露地栽培では一戸当たりの栽培面積が増加しています。



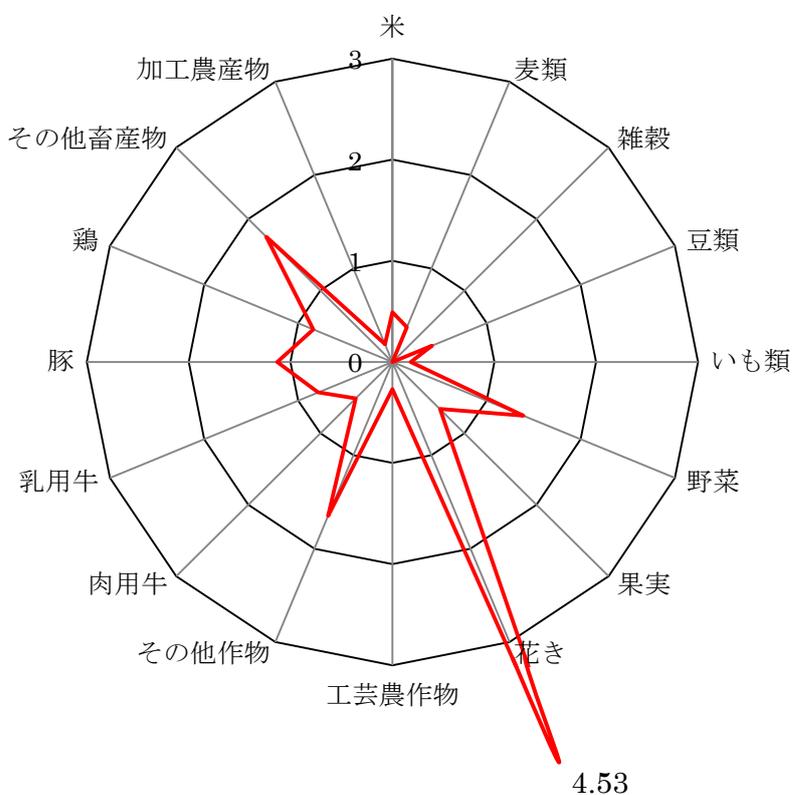
資料：農林水産省 2010年世界農林業センサス、2005年農林業センサス、  
2000年世界農林業センサス

## ● 農業産出額特化係数（平成 24 年）

図は、平成 24 年における全国と比較した愛知県の農業産出額特化係数です。例えば米の特化係数は、愛知県の農業産出額合計に対する米の農業産出額の構成比を、全国の農業産出額合計に対する米の農業産出額の構成比で除した値です。特化係数が 1 より大きいほど、愛知県の当該項目（米、麦類等）の構成比が全国のそれより大きく、その項目に特化していることを示しています。

愛知県は、全国と比較して「花き」の構成比が突出して高いということがわかります。

愛知県の平成24年農業産出額特化係数

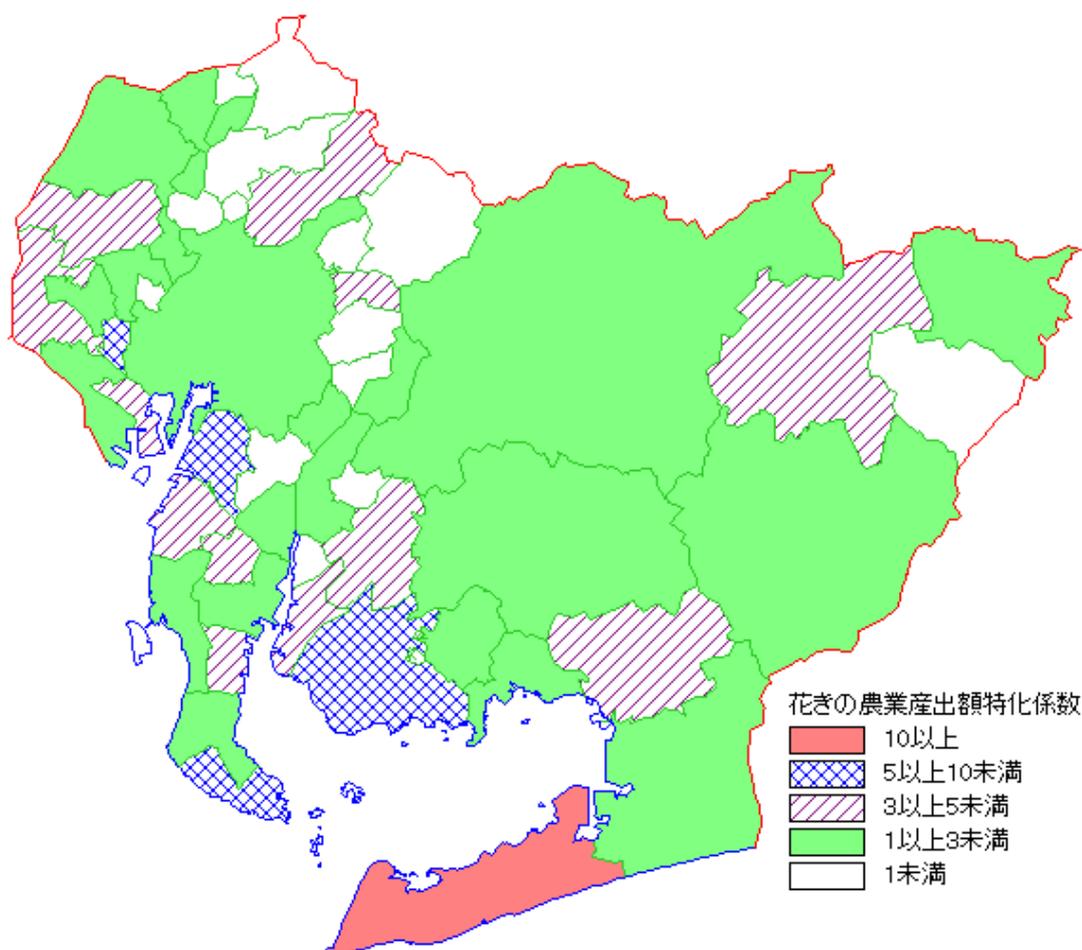


資料：農林水産省 「平成 24 年生産農業所得統計」より作成

## ● 花きの農業産出額特化係数（平成 18 年）

図は、平成 18 年の全国と比較した愛知県内市町村の「花き」の農業産出額特化係数です。

ほとんどの市町村が農業産出額特化係数が 1 以上ですので、全国の構成比と比較して、愛知県は花きの構成比が高いのがわかります。田原市は 10 を超えています。



資料：農林水産省 「平成 18 年生産農業所得統計」より作成

※合併した市町村については合算して計算しています。